



(北から撮影)

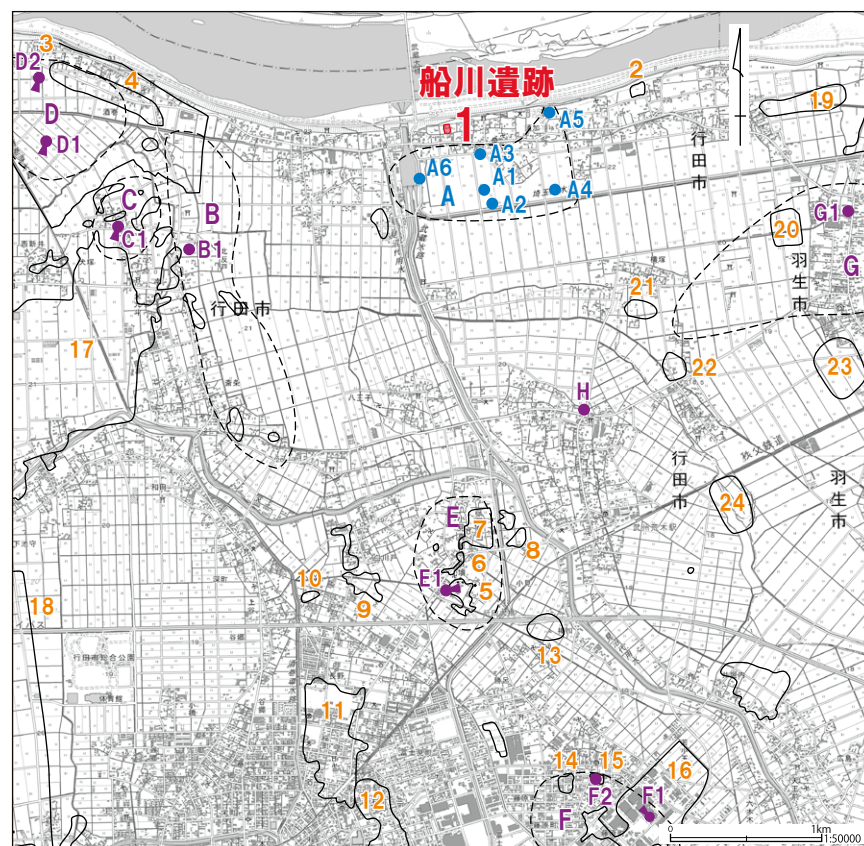
利根川中流の右岸には、地盤の沈降（関東造盆地運動）と利根川の氾濫による土砂の堆積によって、墳丘が地下に埋没している古墳が多数あります。

大稲荷古墳群は船川遺跡の南方 300mほどに展開する古墳群です。1号墳・2号墳・愛宕塚古墳・小稲荷古墳・No.169遺跡・No.170遺跡が確認されています。墳丘は削平

されているか、または埋没しており、正確な古墳の数や分布範囲は明らかではありません。

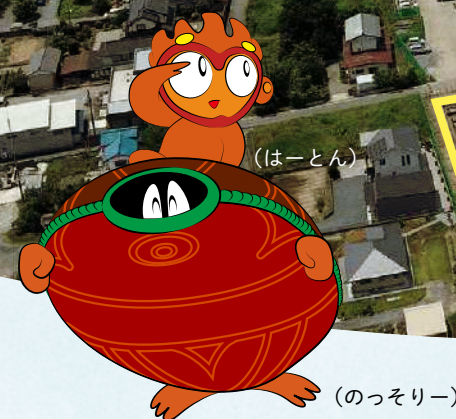
大正5年（1916）に1号墳から石棺が発見され、その中には鹿角装刀子や四獣鏡などが納められていました。6世紀初頭頃の築造とみられます。2号墳は出土した遺物から5世紀後葉頃の築造と考えられ、埼玉古墳群の稲荷山古墳とほぼ同時期のものとされています。船川遺跡からもこれらと同時期の遺物が出土しており、関連がうかがえます。

周辺の遺跡



1 船川遺跡	古墳群
2 砂原遺跡	A 大稲荷古墳群
3 立野遺跡	A1 1号墳
4 宅地遺跡	A2 2号墳
5 屋敷通遺跡	A3 No.169遺跡
6 屋敷通西遺跡	A4 No.170遺跡
7 屋敷通北遺跡	A5 愛宕塚古墳
8 棒川遺跡	A6 小稲荷古墳
9 文殊前遺跡	B 齊条古墳群
10 柳坪遺跡	B1 5号墳
11 馬場裏遺跡	C 犬塚古墳群
12 林遺跡	C1 とやま古墳
13 白鳥田遺跡	D 酒巻古墳群
14 中村遺跡	D1 8号墳
15 中村東遺跡	D2 15号墳
16 北大竹遺跡	E 小見古墳群
17 南河原条里遺跡	E1 小見真観寺古墳
18 池守遺跡	F 若小玉古墳群
19 別所遺跡	F1 三方塚古墳
20 宿裏遺跡	F2
21 横塚遺跡	G 新郷古墳群
22 横塚南遺跡	G1 愛宕塚古墳
23 上宿遺跡	H 愛宕神社古墳
24 六反坪遺跡	

行田市 船川遺跡 (第3次)



船川遺跡の発掘調査は、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に伴い令和3年（2021）12月から開始しました。今年度の調査が第3次調査となります。

船川遺跡は妻沼低地から加須低地に広がる沖積地に形成された自然堤防上に立地しています。これまでの発掘調査では古墳時代、奈良・平安時代、中・近世の遺構や遺物が見つかりました。今回の見学会では古墳時代の竪穴住居跡や遺物などをご覧いただきます。

主催 公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 共催 埼玉県教育委員会
後援 国土交通省 関東地方整備局 利根川上流河川事務所 行田市教育委員会

調査区全体図

古墳時代

第14号住居跡

長軸約 6.4mの^{たてあな}竪穴住居跡です。南側の壁際から大量に土師器が出土しました。器種は、^{たかつき}高坏や^{かめ}甕、^{こがたつぽ}小型壺が中心です。1軒の竪穴住居跡で使用するには多すぎます。これらの土器は、ほかから持ち込まれたとみられます。



北から



住居跡検出状況

- 凡 例
- 古墳時代
 - 古代
 - 中世



古代

第5号住居跡



第5号住居跡は全体を確認することができました。北側のカマド煙道部の天井もしっかりと残っていました。出土した遺物から9世紀ごろのものとみられます。

中世

第1号火葬跡



第1号火葬跡は人の遺体を火葬した跡です。^{しょう}燃焼部と^{えんどう}煙道が直交するT字形をしています。焼成部から焼骨や焼土が出土しました。他の遺跡の類例から中世のものと考えられます。

第8号井戸跡



第8号井戸跡は直径約0.8mを測ります。覆土から15世紀ごろのかわらけが2点出土しています。船川遺跡からは6基の中世の井戸跡が検出されました。出土遺物には陶器片や青磁碗、かわらけ、古墳の石室に用いられたとみられる石材などがあります。

第7号住居跡



第7号住居跡のカマドには^{りよくでいへんがん}緑泥片岩が構築材として使われていました。緑泥片岩は船川遺跡の周辺では採れません。古墳の石室に用いられたものが転用されたと考えられます。出土した遺物から7世紀前半ごろのものとみられます。

第8号住居跡



^{まがたま}勾玉の形をした石^{せき}製模造品が出土しました。形態から7世紀前半ごろのものと考えられます。石製模造品は祭祀に用いられたとされていますが、どのように使ったのかわかっていません。

集石遺構

中世の集石遺構です。地面を掘りくぼめ、石を配置した様子を確認することができました。自然石や古墳の石室に用いられたとみられる石材のほか須恵器片、土師器片、陶器片、骨片などが出土しています。

